
IS 狼参る

漸 漣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 狼参る

【Nコード】

N0120Z

【作者名】

漸 漣

【あらすじ】

主人公がなぜか死に転生する。

しかし彼は人ではなく狼になることを望んだ。

そんな狼の過ごすIS学園とは？

……この作品。ちよつと思いつきでやって見たかったのでやりました。

暇潰しにでも読んで下さい。

死んだ先にいるのは…。○○神！（前書き）

これ単に思いつきと息抜きで始めたので、更新送れるかもしれません。

死んだ先にいるのは…。○○神！

俺は死んだよね？

「そうだ」

そこに見えるのはいかにもモンハンが大好きそうな少女がいた。

「少女とは酷いな」

そりゃ、すまない。であんたが神かい？

「そう、GODだ」

へえー

「で、お前には転生してもらう」

やっぱ、幼女神が間違えて俺殺した？

「そうだ、その幼女神というのやめてくれないか」

分かった。やめない

「え？」

まあ、いいや転生する所ってどこ？

「ISの世界に行ってもらおう」

いやっほう！ありがとう

「じゃあ、欲しい能力はなんだ？」

幼女神よありがたい。じゃあ、まずはISに関するすべての奴最高値にして。あと、不死身

「いいだろう、他にはいるか？」

じゃあ、狼にしてくれない？

「は？」

は？じゃなくて、ほら、ISは人だけでしょ？だから、俺もとい狼になってやってみたいのよ

「クッ：ハハハハ！面白いな、よし、この幼女神に任せてくれ！」

乗っちゃったW・・・。いいのか！やっほう！

「では、いい人生を過ごせよ」

下に穴がアツ――――――♂

死んだ先にいるのは…。○○神！（後書き）

次話で会いましょう。

でも、人以外でやってみたらどうなるのかと妄想してやりましたw。

主じn…主狼公&IS 紹介（前書き）

簡単な設定説明です

主じn…主狼公&IS 紹介

名前…狼（後にいろいろ決まる）

身長？…1. 8 m （でかいなあー）

話し方…犬？猫？虎？

見た目…デカイ狼。銀狼。

性格…自由

好み…ほとんど無い。

IS？…ワンワン！ワンワン！（何言ってるか分からない）

改めてIS？…ワンワン！ワンワン！（デス・ウルフ（死を招く狼））

待機状態…ワン（黒い首輪）。

備考…わn…転生した本作の主狼公。ISの知識が多彩。実力も高い。

IS…デス・ウルフ（死を招く狼）

操縦狼…狼

世代…ワンワン！（知らない）

機体…フルスキン。銀ではなく黒色の狼。展開するとまさに、メタルウルフ。

備考…このISは狼が作った（どうやって作ったんだ？）

単一仕様能力…SEI

シールドエネルギーインフィニティ

シールドエネルギー

SEが減らない。

もことから、SE多いからあんま意味ない。

武装

咆哮…咆哮をするとAICと同じ効果を出すことができる。解除は任意

ウルフ…肩から四門の砲台がでる。弾切れはしない。

ライフル、バズーカ、荷電粒子砲、ビーム兵器などがだせる。威力は高火力

HELL…ビットを大多数展開する。様々な射撃武器に変更可能。弾切れは存在しない。

マシンガン、ショットガン、ビーム兵器などがだせる。中火力

主じn：主狼公&I S 紹介（後書き）

次話から本編始まります。

第一話 出会い（前書き）

原作前からです。

狼の外見に補正すると

第一話 出会い

えーと、今どこ？

転生したのはいいけど、森の中にいるんだけど。
分からん。どこだよ！

「ワンワンワンワン！」↑実際ではそう聞こえている。

よし、歩こう。

そしてしばらく歩くとそこには軍の練習場があった。

あれ？まさかドイツじゃね？

多分そうだ。チラッと見えたけど千冬がいたよ。

え？てことは？原作1年前？

「誰だ？」

ビクッ！と毛が逆立った気がした。

サッと木の陰に隠れる。

訳にもいかないので堂々と目の前に現れる。

？今思ったけどラウラいるよな？…いたよ、なんか千冬ずっと見てるよ。

流石元教官LOVE。

「ん？犬か…」

「ガオオ!ガオ!」↑ひどいよ!俺狼だぜ!!

「そうか、狼か」

え?通じるの?

「首についているのは…お前捨て狼か?」

違うし。見せてやるか。

I S. —デス・ウルフ（死を招く狼）を展開する

「!?!」

さすがに驚いているのだろう。

動物がI Sを展開するなんて思っただろう。

「お前ちょっとこい」

—NO!

解除して首を振る。

——これが最初の出会い。

第一話 出会い（後書き）

次から原作です。原作崩壊はこの時点です！

次話は今日中に投稿したいと思います。

第二話 IS学園異例の入学者? (前書き)

原作開始です。

千冬とラウラが特にキャラ崩壊? しています。

→まだ出ませんけどねw

ほとんど主狼公視点です。

第二話 I S学園異例の入学者？

クラスは異様な雰囲気になっていた。

男性初の操縦者。織斑一夏

それだけでも凄い事なのだが、それ以上に威圧を出している者がいた。

それはどう見ても狼。

1.8 mと大きい。

しかし、なぜ教室にいるのだろうか？

教壇の窓側に大きなふかふかそうなクッション？に寝そべっている。

一夏よりもその存在感を出していた。

そして、自己紹介をしている途中に一夏が

「以上です」

がたたつ。思わずずっとこける女子が数名いた。そんなの知らんとかかりに狼もとい俺は寝ていた。

いきなり、パンツ！と叩かれる音が聞こえる。

確か、一夏が叩かれてるのかww

「ウルフ」

そう、呼ばれて俺は顔を声の本人へと向ける。

千冬だった。

「ほら、喰うか？」

と懷から出されたのはビーフジャーキー。
意外に食べてみたら美味かったので気に入っている。

「ガウ」

パクツと食べたような声が聞こえる。

普通は平和的に見えるが、食べているのは狼。

千冬が普段一夏に見せないような笑顔を俺に向けている。
狼だけど。

そのあと、千冬に対する黄色い声が聞こえたり。俺のことを説明したりしていた。

最初の授業が終わった。

疲れたので寝る。以外にたくさん寝れることが分かった。

・・・

なんか視線を多く感じる。

自分に対する恐れ、興味、驚き。

等いろんな思想を思わせる視線だ。

なんか、狼になって少し、悲しくなったのは気のせいだろう。

授業。

少し経ってから、山田真耶が誰かに聞いていたので、教室側に寝返る。

「わからないところがあつたら訊いてくださいね。なにせ私は先生ですから」

意外に頼れそうだ。見た目だけだけど。

「先生！」

「はい、織斑君！」

「ほとんど全部わかりません」

・・・。

馬鹿なの？死ぬの？知っとけよそのくらい。

（チート能力貰ったくせに偉そうにしてるな）
不意に頭にあの幼女神の声が聞こえた。
気にしない。

そのあと、一夏は千冬に叩かれ、山田真耶を困らせていた。

俺はまた寝る。

だってやること少ないから…。

休み時間。

セシリアと一夏がなんか話していた。

「「「!?!」」」」

「ふかふか」

眠気が迫ってきた刹那、誰かが俺のテリトリーに入ってきた。
誰だ？喰らってやる！

・・・ということでは無く。

のほほんが俺に寄りかかってきた。

今だ初対面でこんなことをしてもらったことが無かったので、嬉しい。

「ワウ」

軽く返事をした。

のほほんは嬉しそうに俺に体を傾けた。

その姿はまさに少女を守るように体をくっ付ける犬（狼だけど）のようだった。

結局、チャイムが鳴るまでのほほんは俺に寄りかかっていた。

一夏がこれを見たとき「のほほんさんはもののけ○なのか!?!」
と思っていたらしい。

・・・・・・・・・・・・・・・・

次の授業はクラス代表を決めるようだ。

zzzz.....。

「はい。織斑君を推薦します！」

こちら辺は原作通りか？ 以外に五月蠅いな。
これじゃ、寝れない。

「いやでも——」

一夏が反論しようとしたが甲高い声がそれを遮る

「待ってください！ 納得しませんわ！」

セシリアが反論をし始めた。
それに一夏が対抗している。

「そのような選出は認められません！ 大体——以下略——です
か！？」

「イギリスだって、大したお国自慢ないだろ」

幾度が続く。

俺はイライラしていた。

千冬が二人を見てニヤニヤしているが、俺を見た途端少し恐れているように変わる。

それにつられて、セシリア、一夏以外の女子達が向く、そこにはフェンリルに似た
形相をしている狼がいた。

・・・煩い。

俺は怒りを上げるべく咆哮をアゲル。

「ガオオオオオオオオオオオ！！！！」

「「「っ！！！！」」」

すると、一夏&セシリアが声を止め、俺が怒っていることを嫌なほどにも感じる。

他の女子は、怯えていたり、半泣きする子もいた。

すまん女子達。あいつ等が悪い。

まあ、黙ったからいいだろう

見下すように一瞥し寝た。

そのあと、決闘することになったそうだ。

…ブレイクするか。

第二話 I S学園異例の入学者? (後書き)

息抜きにしては、力入っている様な…。駄文だけど

次話で会いましょう。

第三話 狼の寝床は何処？（前書き）

動物の表現難しいw

（表現を表すとひyに読めるのはなぜだろう…。）
気にしないで下さいw

今回は短めです。

第三話 狼の寢床は何処？

さて、放課後になり今日の寢床を探していた。

今日は草で寝ようか、屋上で風で涼んで寝るか。

まあ、人間化？にできるらしいけど、どうやんの？

(幼女神は言いました。g g r k s)

無理

(夜は出来るようにしてやるか？狼男みたいにw)
いいの！？

(いいだろう、だが記憶を変えなければならん。明日以降にできるから)

了解、幼女神！

(そうだろう！ではまたな！)

会話終了。

「ウルフ」

「ワウ？」

首を傾げる。

「お前の部屋なんだが、(私がOHANASI:説得で)特別に部屋を作ってもらったぞ」

やったぜ！

俺は喜びを表すように尻尾を振る。

そして、

案内してもらった。

場所は寮長室の隣、つまり千冬の隣の部屋という事。

で、入った。

なんか、ベッドが教室のクッション以上にふかふかだった。
歩きにくい事はあまりなかった。

狼仕様の部屋に変わっていた。

俺は千冬に駆け寄り頬をペロッと舐める。

※狼です。

千冬はくすぐったいのか恥ずかしいのか嬉しいのか分からないが、
そんな感じだった。

とりあえず、今日は寝よう。

・
・
・

よく、俺そんなに寝れるよなw

ベッドに体を預け、眠った。

次の日、朝食にするために食堂へと向かう。

だが、扉が開かない。
なんで？

あ、手動か。

俺は鼻でドアを開けると、女子達が一斉に俺を見る。
昨日のあれがあったから仕方ない。
一夏とセシリアはバツが悪そうに俺を見ている。

「もふもふだ〜おはよ〜」

のほほんが俺を見つけ駆けてきた。
ていうか「もふもふ」が俺の名か！

「もふもふだ〜」

俺の銀色の毛を触る。

手が当たっていて、人に触られていることが分かる。

撫でられるのも気持ちがいい。

のほほんに俺専用の朝食メニューを渡される。

- ・ステーキ
- ・特上ステーキ
- ・極ステーキ
- ・ステーキの極み
- ・その他諸々
- ・・・・肉率多っ！

まあ、いいやステーキを頼むために足で指を指す。

「これだね？」

「ワウ」

返事をする。

そして、来たので食べる。

とても…美味い。

俺は気分よく教室に向かった。

そして、平和的に一日が終わった。

第三話 狼の寝床は何処？（後書き）

今回は部屋だけを書きたかったので短いです

次話で会いましょう

閑話 幼女神のミス

「あ」

どうした幼女神？

「昨日、人間化させようとしたんだが・・・」

ミスした？

「うむ、狼でも話せるようになった。人間化は夜のみだな、後で自由に変わる用になる」

俺にはメリットしか無いんだが？

「いやな、人間可しようとしたら、おもしろそうだった（筆を滑らせた）んだ」

おい、本音と嘘が逆だぞ。

「まあ、気にするでない」

まあ、いいけど。他に要はある？

「ない」

・・・まさか？

「さらばじゃ」

またかアッ——♂

——穴が空いて落ちた。

閑話 幼女神のミス（後書き）

閑話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0120z/>

IS 狼参る

2011年12月2日17時50分発行